

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2017～2018年度 国際ロータリー イアン H.S. ライズリー 会長テーマ

ROTARY : MAKING A DIFFERENCE ロータリー : 変化をもたらす

創立 1954年 3月 8日

承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30～13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566)22-2111
FAX (0566)25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 吉原 孝彦
幹事 出口 達也
会報委員長 佐野 彰彦

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3003回例会プログラム

[当年度=29回目；当月=4週目]

2018年（平成30年）3月26日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

12:28 1. チャイム

12:30 2. 点鐘……………〈会長〉

3. 開会宣言

4. ロータリーソング斉唱……………日も風も星も

5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介

6. 食事

12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告

8. 退会会員挨拶

……………おの小野 ゆうじ雄司 会員・たかはし高橋 みつり満典 会員
いちかわ市川 のりゆき紀征 会員

9. 幹事報告

10. 出席報告

11. 委員会報告

12. ニコニコボックス報告

13. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(4/2) ……

卓話

講師 NPO 法人刈谷おもちゃ病院

理事長（院長）石川 良雄 様

（紹介者 丹羽 克誌 会員）

(4/9) ……

花見例会（親睦活動委員会）

9:00～15:30

行先：岩倉五条川桜並木散策と岐阜伊奈

波神社しだれ桜の見学

13:00 14. 本日のプログラム

卓話 「電力・ガス自由化の現状と

エネルギー産業の未来」

講師 中部電力株式会社

刈谷営業所長 なかむら中村 いくみ育生 様

（紹介者 丹羽 克誌 会員）

15. 謝辞

16. 点鐘……………〈会長〉

17. 閉会宣言

13:30 18. 散会

ビ ジ タ ー

安城 RC 寺部 あきら暁 様

出 席

会員総数 95名 出席免除 24名

出席義務者+免除者の内例会出席者 90名

欠席 13名 出席率 85.56%

前々回（3/5）の修正出席率 100%

会 長 報 告

- 1) 3月13日（火）刈谷市観光協会、理事会に出席して参りました。
- 2) 3月15日（木）刈谷市社会福祉協議会、理事会に出席して参りました。
- 3) 3月24日（土）地区補助金事業、熊本震災支援として、熊本の滝尾幼稚園へ11名で贈呈式に参加し、和太鼓を贈呈して参りました。



- 4) 3月23日（金）刈谷市国際交流協会役員、幹事会に市川裕大国際奉仕委員長が代理出席致しました。

5) ガバナーより、地区委員会出向者へ委嘱状が届いておりますので、お渡し致します。



幹事報告

- 1) 本日、例会終了後、事務局にて理事会を開催致します。ご関係者のご出席をお願い致します。
- 2) 本日、理事会終了後、事務局にて第5回中長期計画委員会を行ないます。ご関係者のご出席をお願い致します。

委員会報告

●雑誌委員会

- 1) 刈谷、西尾、知立 RC バンドで「あすて中国植林ボランティア」支援チャリティコンサートを4月22日(日)豊田市のあすてコンサートホールにて開催します。刈谷 RC バンドは、14:00～演奏予定です。この模様を「ロータリーの友」に投稿する予定です。

会長あいさつ

RI と繋がる日本のロータリー組織

吉原 孝彦



ロータリーの組織はご存知のように国際ロータリーと各クラブが基本であり、その円滑を図るために地区があり、日本事務局があります。

日本事務局というのは RI が世界に設置した地域事務局6カ所の内の一つです。他にはブラジル、ヨーロッ

パ・アフリカ担当のスイス、南太平洋・フィリピン担当のオーストラリア、韓国、RI 管轄外のグレートブリテン&アイルランドがあります。

日本事務局は1964年3月ロータリー文献東京事務所として開設され、英文の参考資料を翻訳出版し、注文に応じて郵送する仕事をしていました。当時は翻訳室と資料室がありました。その後1981年に RI 日本支局となり、奉仕室が創設されました。ここからロータリー業務がスタートし、新クラブの申請、公式訪問の報告などを日本語で記入して提出出来るようになりました。さらに、1985年には財務室が創設されました。1995年7月に日本

(2)

サービス・センターに改称し、2000年10月に財団室が設けられ、2001年7月1日より国際ロータリー日本事務局となり、資料室(出版物の受注、発送)、クラブ・地区支援室(RI・地区・クラブとの連絡事務、新クラブ申請の受理)、経理室(人頭分担金、財団寄付などについての領収書の発行)、財団室(日本の財団業務全般)の4室で組織されています。

日本には「ロータリーの友」発行の為にロータリーの友委員会と一般社団法人ロータリーの友事務所があります。雑誌は友事務所職員10名にて発行運営され、友委員会は雑誌発行の不可欠な条件として設けられている委員会で、副委員長には現在当地区パストガバナーの片山圭水氏が就いています。この雑誌は1952年に日本の地区が2分割されるのを機に、その後の緊密な連絡・情報の共有を図るために企画されたものでした。1953年1月に富士山の表紙で発刊され、1980年7月号から RI 公式地域雑誌になりました。

最後に公益財団法人ロータリー日本財団があります。ロータリー財団を構成する法人会員は RI のみであり、財団の正式名称は「国際ロータリーのロータリー財団」です。RI と法的に組織は違っても、その目的・使命・活動は両者ともに一体です。日本財団はその「国際ロータリーのロータリー財団」の協力財団です。平成22年に公益財団法人としての認定を受けました。業務としましては基金等寄付の受付や奨学金の提供をしています。

退会会員あいさつ



小野 雄司 会員



高橋 満典 会員



市川 紀征 会員

卓 話

「電力・ガス自由化の現状と
エネルギー産業の未来」

中部電力株式会社
刈谷営業所長 中村 育生 様



中部電力刈谷営業所の中村でございます。今日は、このような機会を頂き本当にありがとうございます。この3月末で、電力自由化より2年・ガス自由化より1年という切りの良いタイミングであることから、

今回の卓話の機会に繋がったものと理解しております。

まず、電力小売全面自由化ですが、参入登録事業場数は、今年3月現在時点で464社となっています。その内訳を見ていくと、「都市ガス・LPガス系」「石油系」「通信系」などに分類されます。

既存電力会社から、契約変更がどのくらいされたかについてですが、全国では約670万件となっており、主な地域別では多い方から、関東・関西・中部となっています。全国ベースで見た場合の、今回の自由化対象の各社販売電力量シェアランキングは、第1位が「東京ガス」で突出しています。第2位がCMを精力的に行っている「KDDI au 電気」、第3位が「大阪ガス」となっています。

電力自由化で、最近起きている事象は、「首都圏への参入の加速」と「登録した新電力等の事業撤退」です。前者の例としては、当社と大阪ガスが4月より新会社を立ち上げ、首都圏で電力・ガスの販売活動をはじめます。後者では、大東建託系の「大東エナジー」やオリックス系の「オリックス電力」の撤退がマスコミで取り上げられました。

続きまして、ガスの自由化です。供給者変更は、電気と異なり、地域別では、関西地方が最も多くなっています。特徴的なのは、参入登録者が電力と比較して極端に少ないことです。これは、取引市場の未整備や燃料調達・設備面・保守要員確保などが、参入を困難にしている要因とされています。

さて、最後に「エネルギー産業の未来」についても少しだけ触れさせていただきます。

最近業界で大変話題となっている本があります。その表題は「エネルギー産業の2050年 Utility3.0へのゲームチェンジ」というものです。この「ユーティリティ」という言葉には「公益事業」という意味もあります。「3.0」とは、この先「他産業とエネルギー産業の融合」が進んでいく状態の事を指しています。

今後は、ライドシェアや自動運転の普及が進むと共に、蓄電池を積んだEVが電力連係を行うことで一定の役割を果たしたり、AIの進展により様々なサービス産業が生まれる中で、電力会社との契約という概念も大きく変化していく可能性等を示唆しています。

本格的競争が始まったばかりで、まだまだ動きが遅い当社ですが、電気を送るという従来の単一的役割のみでなく、本当の意味で地域へのお役立ちができる会社への変化の入口に立ったと考えております。

本日は堅苦しく拙い卓話となりましたが、ご静聴ありがとうございました。

第10回理事会

- I 会長挨拶 〈会長〉
- II 議題
 - 1. 4・5月のプログラム（案）について
 - 〈クラブ奉仕委員長〉
 - 〈プログラム委員長〉
 - 2. 観劇家族例会について 〈親睦活動委員長〉
 - 3. 新入会員について 〈幹事〉
 - 4. 刈谷市災害派遣トイレネットワークプロジェクト「みんな元気になるトイレ」について 〈幹事〉
 - 5. その他
- III 会場監督の所見